






令和7年 **3**月の大阪森林便り

目次

3月の木の話 接触温冷感

- (1)  木材由来の新素材、離陸期 セルロースナノファイバー、価格低下
- (2)  再エネ支援一部対象外 輸入材バイオマス コスト下がらず
- (3)  国産針葉樹合板、再び上昇 問屋卸値 3%高
- (4)  花粉症 1970年代から患者急増 植林、高度成長と共に
- (5)  集成材原料、欧州産 3.5%高 1~3月、コスト増重く



3月の木の話 接触温冷感

*常温の物質を手で触れたときに温かいと感じるか冷たいと感じるか（接触温冷感）は、物質の熱伝導率に深く関係しています。

*熱伝導率：熱の伝わりやすさを示す値。

*熱伝導率の小さい物質は、手で触れたときに体温があまり奪われないので、温かい印象を受けやすくなります。

*密度の小さい（軽い）木材ほど、熱の移動する経路になる細胞壁が少なく、空気層が多くなるので、温かく感じられます。

*密度の大きい（思い）木材ほど、細胞壁が多くなり皮膚から奪う熱も増えるので、冷たく感じられます。

*同じ密度でも、木口面は細胞壁がより連続しているので熱伝導率が大きく、板目面や柾目面に触れたときよりも冷たく感じられます。

（木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ 100問より抜粋引用）

(1)  木材由来の新素材、離陸期

セルロースナノファイバー、価格低下

和菓子の食感良く 車部品の補強材に

*セルロースナノファイバー：木材由来の新素材。植物繊維の主成分であるセルロースを細かく解きほぐしたものの。

*保湿性や増粘性が増す特徴。

*保湿性のある添加剤などとして食品や化粧品で採用が増え、世界市場の規模は毎年1~2割ほど拡大します。

*製紙会社は紙の原料確保のため広大な森林を保有。

*世界的にもセルロースナノファイバーの開発や事業化を主導。

(2025年2月4日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(2)  再エネ支援一部対象外

輸入材バイオマス コスト下がらず

*経済産業省は再生可能エネルギー支援の範囲を初めて縮小します。

*2026年度から輸入木材などを使うバイオマス発電を対象から外します。

*新規参入が途絶え、将来的な発電コストも太陽光の4倍近くに高止まりするのが背景にあります。

*現状でバイオマス発電の7割強が輸入資源。

*円安進行や物価高騰で輸入木材などの価格が上がり採算性が悪化。

*輸入資源に頼ったバイオマス発電はエネルギーの自給率を高める国の戦力とは矛盾しており、輸送コストなどで環境に負荷がかかっている可能性もあります。

*2040年時点でバイオマス発電単価は1キロワット時あたり32.9円と太陽光の3.9倍、洋上風力(着床)の2.4倍となる見込みです。

(2025年2月4日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 国産針葉樹合板、再び上昇 問屋卸値 3%高

住宅高騰、荷動き鈍化も 生産調整で余剰感解消

- *国産針葉樹合板の流通価格が再び上がりました。
 - *東京地区のメーカー出荷価格は、2月上旬時点で12厚品が1月比で3%高。
 - *値上がりは2024年5月以来、9か月ぶり。
 - *5月以降、流通価格は横ばいが続き、同年10月と12月に下落していました。
 - *再び上昇した要因は、メーカーの生産調整により余剰感が解消したこと。
 - *2024年12月末の針葉樹合板の在庫量は前月比7%減少。減少は3か月連続。
 - *合板メーカーは価格を維持するため、生産を供給能力の8~9割に抑制。
 - *木造住宅の着工戸数は2024年12月に前年同月比4.7%増えましたが、4万戸を下回る水準。
 - *設備費や職人の人件費が上がり、住宅自体が値上がりしています。
- (2025年2月5日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 花粉症 1970年代から患者急増

植林、高度成長と共に

- *花粉の発生源であるスギは1950~70年代に増加の一途をたどりました。
 - *戦後の木材不足や高度経済成長期の住宅需要増を受け、成長が早く加工しやすいスギが全国に植えられたためです。
 - *スギは樹齢30年を超えると花粉を多く出します。
 - *2019年時点の花粉症「有病率」は42.5%で、1998年は19.6%。
 - *海外でも花粉症は増加傾向。
 - *世界全体で13~14歳の22%が花粉症。
 - *有病率は、オセアニア40%、北米33%、アジア24%、西欧21%。
 - *国や地域ごとに花粉症の原因となる植物は異なります。
- (2025年2月12日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5)  集成材原料、欧州産 3.5%高

1～3月、コスト増重く

住宅着工低迷 流通価格転嫁は不透明

- *集成材の原料のラミナ（引き板）が3四半期ぶりに値上がり。
 - *欧州産の1～3月期の対日価格は2024年10～12月期に比べ3.5%上がりました。
 - *上昇の一因は丸太価格の高止まり。
 - *樹木を腐らせる虫の被害が拡大。
 - *もうひとつの要因はパルプ向けの需要拡大。
 - *北欧ではプラスチック製品を減らし紙製品を増やす動きが盛ん。
 - *さらにウクライナ情勢の悪化以降、電気代も高騰。
 - *集成材を使う住宅は国内の新設着工が低迷。
 - *流通価格に転嫁できるかは見通しにくくなっています。
- （2025年2月21日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

